

平成 30（2018）年度  
廿日市市との包括的連携協定に伴う  
地域連携センター活動報告書

山陽女子短期大学

地域連携センター

## 平成 30（2018）年度地域連携センター活動報告によせて

山陽女子短期大学 地域連携センター長

丸川 浩

山陽女子短期大学に、広島県内の大学・短期大学に先駆けて、生涯学習センターが設置されたのは、平成元（1989）年のことです。平成 24（2012）年には、機能をさらに強化し、活動領域を広げた組織として、地域連携センターが設置されました。また、その翌年の平成 25（2013）年には、廿日市市との間に「包括的連携協力に関する協定」が結ばれました。

こうした経緯で設置された地域連携センターは、現在、生涯学習部門、産学連携部門、自治会部門が連携を取りながら、事業の運営を行っております。事業につきましては、本学の特性と地域からの要請を踏まえて、「1. 食と健康の増進」、「2. 教育・文化・生涯教育の推進」、「3. 地域の活性化・まちづくりの推進」、「4. 人材の育成」、「5. 環境活動の推進」、「6. 産学連携事業」「7. その他の事業」の 7 分野で展開しております（昨年度は 6 分野でした）。また、事業を推進していくためには学生の参加協力が不可欠であることから、学内にボランティア委員会を設置し、学生のボランティア活動のサポートに当たっております。

廿日市市との協定締結の 6 年目に当たる本年度は、41 事業に関わりました（そのうち、実施あるいは参加の要請がなかった事業もあります）。実施・参加した事業の詳細については、本報告書に掲載しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

本学地域連携センターの活動は、各方面のご協力によって、運営されています。この先も、廿日市市の各部署、佐方自治会の方々と協議を重ねながら、さらなる発展を目指す所存でございます。

今後とも、山陽女子短期大学地域連携センターの活動に対して、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 平成 30 年度 山陽女子短期大学地域連携センター事業

### 1. 食と健康の増進 実施時期に※がついている事業は、要請がなかったなどの理由によって実施しなかった事業

整理番号	事 項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学責任者	備考
1 - 1	災害時の栄養と食事に関する講座	継続	※	廿日市市福祉保健部 社会課	中東	
1 - 2	保健指導関連事業	継続	10 月	五師会	中東	
1 - 3	SAT システムによる食事指導	継続	※		食物栄養学科 教員	食物栄養学科

### 2. 教育・文化・生涯教育の推進

整理番号	事 項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学責任者	備考
2 - 1	生涯学習フェスティバル	継続	11 月	廿日市市教育委員会 生涯学習課	津村	SAT、スイーツ販売
2 - 2	山陽女子短期大学公開講座	継続	5 月～6 月 11 月～12 月	廿日市市教育委員会 生涯学習課	丸川	前期：統一テーマで、4 回連続の開催予定 後期：全学科で担当し、別テーマで、単発の講座を 2 回開催予定
2 - 3	七福大学	継続	7 月	佐方市民センター	丸川	講師：平林
2 - 4	パソコン基本操作	継続	31 年 3 月	廿日市市教育委員会 生涯学習課	章	
2 - 5	親と子の野菜教室	継続	年 6 回	JA 佐伯中央	鈴木	

3. 地域の活性化・まちづくりの推進

整理 番号	事 項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学責 任者	備考
3 - 1	街道まつり	継続	※	廿日市市郷土文化研究会	岡崎	要請があれば実施
3 - 2	「大新の桶すし」の再復活	継続	11月	廿日市商工会議所婦人部 廿日市市郷土文化研究会	津村 谷 口 (薫)	「食育インストラクター特論」として代替実施
3 - 3	まちづくり交流会 in はつかいち	継続	※	廿日市市協同推進課	岡崎	要請があれば実施
3 - 4	県内産食材を使用した焼き菓子販売	継続	※	JA ふれあい市場廿日市	西庄	
3 - 5	けん玉商店街“七夕まつり”	継続	7月	廿日市駅通り商店会	西庄	
3 - 6	廿日市市民センターまつり	新規	※	廿日市市民センター	谷口薫	
3 - 7	津和野街道早駆け大会	新規	※	早駆け大会実行委員会	谷口薫	
3 - 8	けん玉ワールドカップ	新規	7月		岡崎	
佐方 1	れんげ祭り	継続	4月	佐方自治会	石永	全学募集 食べ物販売等
佐方 2	縁側サロンの会	継続	7月	佐方自治会	平林	食物栄養学科2年生
佐方 3	佐方夜市夏祭り	継続	※	佐方中央商店街	岡崎	物販販売
佐方 4	佐方地区敬老会	継続	9月	佐方自治会	未定	全学募集
佐方 5	通学合宿	継続	※	佐方自治会	平林	食物栄養科 買い物・料理作りのサポート)
佐方 6	地域花いっぱいうんどう	継続	※	佐方自治会	石永	全学募集 佐方地区
佐方 7	さがたっこひろば	継続	11月	佐方市民センター	下地 西庄	食物栄養学科
佐方 8	子供餅つき大会	継続	11月	佐方自治会	石永	全学募集 八幡神社境内
佐方 9	佐方地区とんど祭り	継続	1月	佐方自治会	石永	全学募集 佐方小学校校庭

#### 4. 人材の育成

整理 番号	事 項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学責 任者	備考
4 - 1	インターンシップの推進	継続	8月	廿日市市人事課 企業・施設の担当者	章 鈴木	
4 - 2	診療情報管理士・医療事務員スキルアップ研修	継続	年に6回		有吉	
4 - 3	医療機関機能別医療費説明会	継続	※		有吉	
4 - 4	ゼロからはじめる癌登録	継続	※		梅本	

#### 5. 環境活動の推進

整理 番号	事 項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学責 任者	備考
5 - 1	はつかいち環境フェスタ	継続	10月	はつかいち環境フェスタ 実行委員会	岡崎	
5 - 2	手指衛生等の出前授業	継続	※	廿日市教育指導課	藤井	
5 - 3	台所用品の衛生度チェック	継続	※		藤井	
5 - 4	花粉飛散調査	継続	2月～3月		岡村	

#### 6. 産学連携事業

6 - 1	宮島サービスエリアレストランメニュー開発	新規	H30年度	廿日市市	岡崎	平林(食物栄養学科)
6 - 2	吉和ルバーブ加工食品の開発	継続	H30年度	ひろしま地産地消推進協議会	岡崎	吉和ルバーブ加工品の販売
6 - 3	ナマコ、ムール貝、アサリの加工品の品質改善	新規	H30年度	濱本水産(株)	岡崎	共同研究契約締結予定
6 - 4	新しいおはぎの開発	新規	H30年度	ちいさなおはぎ屋 寿マナック(株)	岡崎	

7. その他の事業

整理 番号	事 項	新規/ 継続	実施時期	連絡責任者	本学責 任者	備考
7 - 1	廿日市市まち・ひと・し ごと創生総合戦略	継続	※	廿日市市分権政策経 営政策課	谷 口 (黨)	廿日市市の事業
7 - 2	ブレストケア・ピンクリ ボンキャンペーン	継続	5 月		中東	
7 - 3	エイズ啓発活動	継続	12 月	広島県。広島市 (一社) 広島県臨床検 査技師会	小野寺	
7 - 4	ひろしまフードフェス テバル	継続	10 月	JA 広島	西庄	
7 - 5	廿日市市消防団「機能別 団員」	新規	H30 年度	廿日市市消防署	石河	臨床検査学科及び 食物栄養学科学生

☆地域連携センター事業以外の本学教員の社会活動（平成 30 年度）

- 津和野街道 400 周年記念事業実行委員会会長（廿日市まちづくり協議会伝統文化事業部）  
平成 30 年 3 月～令和 2 年 6 月 石永正隆
- 廿日市市学校給食センター運営委員  
平成 26 年 4 月～平成 31 年 3 月 平林真弓
- 廿日市警察署協議会委員・地御前派出所協議会委員（廿日市警察署） 谷口 薫
- 平成 30 年度随時 3 級等技能検定委員（広島県職業能力開発協会） 岡崎 尚
- 職員研修「食品の腐敗に関する微生物とその殺菌」（広島市保健所）  
平成 30 年 3 月 16 日：広島市保健所 岡崎 尚
- 廿日市市地域福祉計画推進委員会委員（廿日市市役所福祉総務課福祉企画グループ）  
平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月 中尾信子

地域貢献・地域連携活動報告

1 - 2

活動名	保健指導関連事業：五師会
目的または趣旨	廿日市市住民に楽しみながら医療・保健・福祉について体験し、学ぶことができる催しに参加する。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：廿日市市社会福祉協議会 経緯：五師会のメンバーとして、あいプラザまつりに学生と一緒に参加していただきたいとの要望があった。
年・日時	平成 30 年 11 月 4 日
活動拠点	廿日市市総合健康福祉センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：★中東教江 食物栄養学科 栄養管理コース 2年 2名
活動内容	市民に健康に関するクイズを解いていただく。参加賞として、業者から提供していただいたお土産をわたす。答を確認し、違っている所は解説をする。男性 48 人、女性 146 人計 194 名、下は 4 歳から上は 91 歳と幅広い年代にクイズへ参加していただき、盛況であった。親子連れで問題に挑戦していただき、子どもの方が正解するという場面のあり、小学校での食育の効果が見えた。
反省・コメント	難しい問題ではないが、あまり気に掛けることのない内容だったので、全問正解の人はいなかった。しかし、多くの人に楽しんでいただけたと思う。開始して、早くに大勢の人がクイズに参加したので、参加賞の景品が 2 時ごろにはなくなり、とても盛況だった。
添付書類	(有) <input checked="" type="radio"/> 無

地域貢献・地域連携活動報告

2-1

活動名	第 28 回廿日市市生涯学習フェスティバル
目的または趣旨	フードモデルとパソコンによる食事バランスチェック
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	主催：廿日市市、廿日市市教育委員会、廿日市市生涯学習係 経緯：2010 年から毎年参加している。
年・日時~年・日時	2018 年 11 月 4 日 10-15 時
活動拠点	廿日市市庁舎
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	★津村なみえ 食物栄養学科 2 年生 5 名、1 年生 2 名
活動内容	食育 SAT システムによる食事バランスチェックを行った。バランスチェック結果のプリントアウトと、学生による簡単な解説をその場で行った。途中、イベントステージにおいて、司会者から質問される形式で出展の PR 時間をいただいた。昨年よりも奥まった場所だったせいか、バランスチェック体験者は 80 名（昨年 190 名）程度であった。
反省・コメント	行列ができると興味を持ってバランスチェックしてみようとする人は増えるが、行列が無く閑散としていると素通りする人が多いように感じた。イベントステージでの PR でバランスチェックを知ってきた人もいた。ステージや、メインの入口から遠い場所であったため、呼び込み等をして PR すればもう少し人が増えたかもしれない。
添付書類	有





地域貢献・地域連携活動報告

2 - 2

活動名	第 38 回 山陽女子短期大学公開講座 (2018 年度前期)
目的または趣旨	地域住民に生涯学習の機会を提供する。
共催団体名	共同主催：山陽女子短期大学 廿日市市生涯学習推進本部
開催期間	2018 年 5 月 26 日 (土) ~6 月 16 日 (土) 毎回 13:30~15:00
活動拠点	山陽女子短期大学
運営者	全体の責任者：★丸川 浩 運営：山陽女子短期大学地域連携センター生涯学習部門 廿日市市教育委員会生涯学習課
活動内容	「基礎から学ぶ健康科学」を統一テーマとし、全 4 回を、本学教員 4 名が担当して行われた。  一般参加応募者数：60 名
反省・コメント	今回は、本学の得意分野である健康系のテーマだったので、安定的な受講応募者数、出席者数が確保できた。講座終了時に行ったアンケート結果では、78.7%の受講者が、満足だと「思う」「少し思う」と回答しているので、概ね好評であったと考えられる。
添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> (有) 無)

第 38 回 山陽女子短期大学公開講座 (2018 年度前期)



地域貢献・地域連携活動報告

2-2

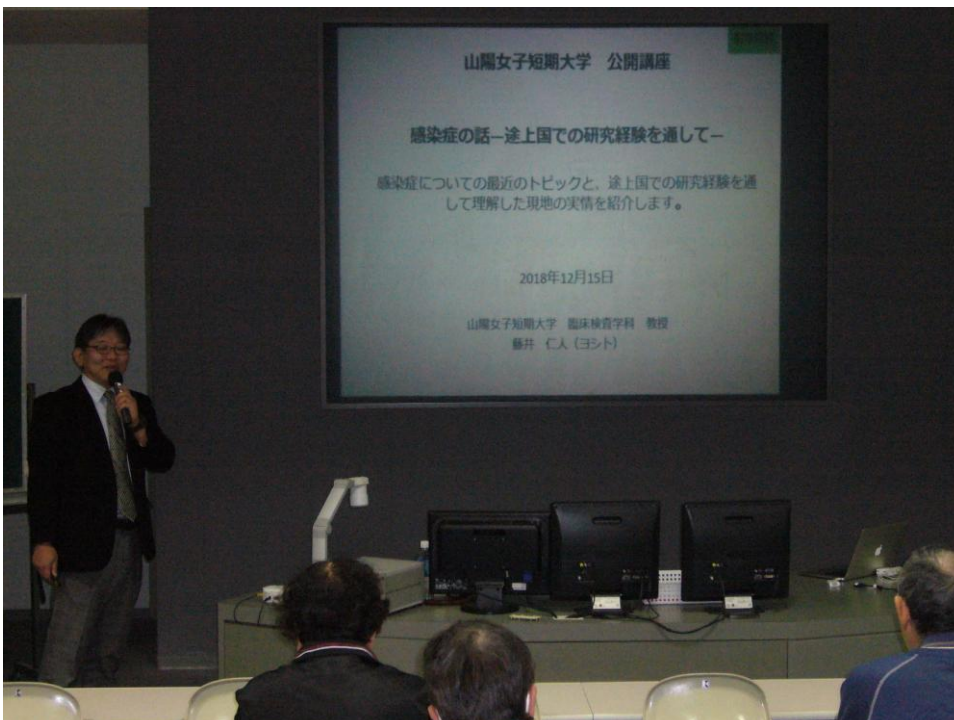
活動名	第38回 山陽女子短期大学公開講座（2018年度後期）
目的または趣旨	地域住民に生涯学習の機会を提供する。
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	共同主催：山陽女子短期大学 廿日市市生涯学習推進本部
年・日時～年・日時	第1回 2018年12月1日（土） 13:30～15:00 第2回 2018年12月15日（土） 13:30～15:00
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：丸川 浩 運営：山陽女子短期大学地域連携センター生涯学習部門 廿日市市教育委員会生涯学習課
活動内容	第1回は、「和食の魅力と継承—郷土の食文化の再評価—」をテーマとして、的場輝佳・奈良女子大学名誉教授が、第2回は、「感染症の話—途上国での研究経験を通して—」をテーマとして、藤井仁人本学教授が講師となって開催した。 一般参加応募者数：第1回 31名 第2回 20名
反省・コメント	毎年、前期よりも後期の方が受講応募者が少ないという傾向が続いている。テーマ、開催時期などの問題があるかも知れない。受講料（1回500円）についても再検討する必要があるようにも思う。受講者アンケートの結果は、良好だった。
添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

第 38 回 山陽女子短期大学公開講座（2018 年度後期）

講座の様子（第 1 回）



講座の様子（第 2 回）



地域貢献・地域連携活動報告

2 - 3

活動名	七福大学 高齢者学級
目的または趣旨	佐方地区で開催されている七福大学の方々に「生活習慣病」の予防について講演しました。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	佐方市民センター高齢者学級に食物栄養科として講演できる身近な問題で依頼をうけた。
年・日時~年・日時	2018年7月19日 13:00~15:00
活動拠点	佐方市民センター
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	責任者 平林 眞弓 参加者 センター長・事務員 2名 地域の方々 10名 計 13名
活動内容	健康講座 「生活習慣病」メタボリックシンドロームの予防 生活習慣病の原因(高血圧・脂質異常症・高血糖について) 生活習慣病の予防について(食生活の改善) 食事バランスガイドの説明 食生活の改善と運動療法等について
反省・コメント	とても暑い日で高齢の方々の参加が少なかったとのことでした。
添付書類	無

地域貢献・地域連携活動報告

2 - 4

活動名	パソコンの操作と活用 ～家計簿を作ろう～
目的または趣旨	地域住民に生涯学習の機会を提供する。
共催団体名および共催の経緯	廿日市市教育委員会・生涯学習推進本部
年・日時～年・日時	2019年3月19日（火）10:00～12:00
活動拠点	山陽女子短期大学
運営	全体の責任者：章 情報センター長 運営：山陽女子短期大学地域連携センター生涯学習部門 廿日市市教育委員会生涯学習課
活動内容	高齢者・初心者を対象として、パソコンの入門講座を行った。講師は、本学章教授で、学生アシスタント5名、教職員4名を配置し、廿日市市教育委員会生涯学習課の職員の方にもアシストしてもらい、参加者はパソコンを操作しながら受講した。  一般参加応募者数：35名（抽選により26名を選抜した）
反省・コメント	受講者アンケートの結果は、まずまず好評だったが、「説明がはや過ぎて、ついていけなかった」という意見もあった。ローマ字入力ができる方という条件をつけて募集しているが、受講生の習熟度にかかなり差があって、例年以上に、指導に困難があった。今後も引き続いて検討を要する。
添付書類	（有 無）

## パソコン講座

### 講座の様子





地域貢献・地域連携活動報告

2 - 5

活動名	JA 企画「第 11 回 親と子の野菜スクール」
目的または趣旨	野菜の植え付けから栽培、収穫、調理までの一連の過程を通じ、「地産地消」「農業の魅力」を体験する。
主催団体名	佐伯中央農業協同組合
期日（期間）	①2018年5月19日（土） 岩倉ふれあいパーク「ふれあい農園」 ②2018年6月9日（土） 岩倉ふれあいパーク「ふれあい農園」、廿日市玖島地区 ③2018年8月18日（土） 岩倉ふれあいパーク「ふれあい農園」、さいき文化センター ④2018年9月8日（土） JA グリーン大竹、マロンの里交流館 ⑤2018年10月6日（土） 廿日市玖島地区、岩倉ふれあいパーク ⑥2018年11月23日（土） JA 産直ふれあい市場⑦2018年12月8日（土） JA 佐伯中央
活動拠点	○廿日市市宮内 4473-1 JA 佐伯中央 ○廿日市市津田 3231-1 岩倉ふれあいパーク「ふれあい農園」
参加者	○食物栄養学科 1 年生 3 名（8 月以降 2 名） ○担当教員：食物栄養学科 鈴木
活動内容	5 月～12 月まで全 7 回にわたり、「地産地消」「農業体験」をテーマに各種野菜（米、さつまいも、大長なす、枝豆など）の種まきや苗つけから栽培、収穫、調理までの一連の作業を体験した。地元農家の協力を得ながら、さらには本企画に参加する地元の家族との交流を持ちながら食農体験ができた。また今年は、干し柿づくり、味噌づくりなど加工作業も加わり、学生らには全 7 回を通じ、教室内では決して経験することのできない貴重な食農・食育経験の場になったのではないかと思われる。
反省・コメント等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5 月～12 月まで計 7 回に渡る長期のプログラムであったが、期の途中で 1 名の学生が不登校状態となり、本プログラムにも不参加という状況となった。</li> <li>・今年は参加学生が少なかったものの、その分全てのプログラムに責任感を持ち、他の家族との交流も積極的であったように思われる。</li> </ul>
添付書類	有



## 第11回 親と子の野菜スクール

親と子の野菜スクールでは、親子で種まき・植付・収穫・料理までの体験を通じて、次世代を担う子どもたちに食と農の大切さを伝えています。

**実施場所** ふれあい農園(廿日市市津田3231-1) 田植え(廿日市市玖島地区) マロンの里(大竹市栗谷町大栗林195-12)

**募集対象者** 原則全ての日程に参加できる方  
農業や料理に興味があり参加家族といっしょに体験していただける方

**募集人員** 10人

**参加費** 無料

**申込期限** 平成30年4月27日(金)

**参加申込** 下記申込書に必要事項をご記入の上、学校でとりまとめのうえ、JAにお申込みください。  
なお、お申込みいただいた際に取得する個人情報、スクールのご連絡や各種JA事業のご案内にのみ使用させていただきます。

**その他** ○野菜スクールの詳細・日程は学校に別途郵送にてご通知します。  
○参加風景はJA広報誌やホームページなど各メディアで報じられる場合があります。  
○詳細については企画広報課までお尋ねください。

日 程(予定)	1回目	2018年5月19日(土) 9:00~15:00 昼食あり
	2回目	2018年6月9日(土) 9:00~12:00
	3回目	2018年8月18日(土) 9:00~14:00
	4回目	2018年9月8日(土) 8:00~12:00
	5回目	2018年10月6日(土) 9:00~15:00 昼食あり
	6回目	2018年11月23日(金) 9:00~14:00 昼食あり
	7回目	2018年12月15日(土) 9:00~12:00

※野菜の生育状況や天候、講師、会場の都合により実施日が変更または中止となる場合がありますのでご了承ください。

主催/佐伯中央農業協同組合

事務局: 企画広報課 廿日市市宮内4473-1 ☎ 0829 39 3211

切り取り線

企画広報課 行

### 第11回 親と子の野菜スクール参加申込書

参加者情報	●住所	〒					
	●電話	— — (自宅・携帯・その他)					
	●緊急連絡先住所	〒					
	●緊急連絡先電話	— — (自宅・携帯・その他)					
	氏名	性別	年齢	血液型	学科・コース	学年 (小・中・高)	
	フリガナ						
	備考欄						



昨午の様子

地域貢献・地域連携活動報告

3 - 2

活動名	「桶寿司」講習会
目的または趣旨	廿日市市に伝わる桶寿司の歴史を知り、復活した桶寿司のつくり方を学ぶ。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：廿日市郷土文化研究会 経緯：郷土文化研究会正木様から重田先生に依頼があり、桶寿司文化の継承のため、2012年から毎年開催している。
年・日時~年・日時	2018年11月30日(金)9~13時
活動拠点	本学総合調理実習室
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	教員 ★津村なみえ 学生 食物栄養学科2年生8名
活動内容	郷土文化研究会(正木(康)、吉岡、大塚、正木)、廿日市市商工会議所女性会(水本、馬場)様(合計8名)ご協力のもと、廿日市市に伝わる「桶寿司」のつくり方を教えていただきながら作った。重石をのせて漬け込む合間によもぎ餅も作った。 桶寿司とは何か、桶寿司を復活させたときのいきさつなどを聞き、談笑しながら出来上がった桶寿司をいただいた。
反省・コメント	学生たちも質問や味見をしながら楽しそうに作っていた。年の離れた方達とも和気あいあいと会話・交流ができていた。 食育インストラクター授業の一環として行っており、今回は授業履修者のみの参加であったが、その他の学生の参加も歓迎している。参加者が増えるようさらに呼びかけて実施したい。
添付書類	有



地域貢献・地域連携活動報告

3 - 5

活動名	けん玉商店街「七夕まつり」
目的または趣旨	七夕まつりにて焼き菓子の販売を行う
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	廿日市駅通り商店会 青年部部長 天野晃寛
年・日時~年・日時	2018年7月6日(金) 16:30~17:00 2018年7月7日(土) 17:00~21:00 (中止)
活動拠点	けん玉商店街(飲食ブース:桑原旅館北側駐車場)
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	★西庄 栄養調理コース1年生2名
活動内容	6日:米粉のクッキー生地作りをしていた最中に、大雨警報発令のため、学生を帰宅させた。商品が作れなかったため、出店を見送ることとした。 7日:主催者より連絡があり、災害の規模が大きかったため祭りを自粛するという連絡があった。
反省・コメント	天災などでやむ終えず中止になった場合の材料費などをどのようにするかを考える必要があると考える。 特に生ものを取り扱うので廃棄せざるを得ない。
添付書類	(有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> )

地域貢献・地域連携活動報告

3-8

活動名	けん玉ワールドカップ
目的または趣旨	廿日市市の依頼により、廿日市市サンチェリーにて開催される「けん玉ワールドカップ」において、学生教育の一環として出店を行う
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：Kendama World Cup Hatsukaichi 実行委員会 (一社) グローバルけん玉ネットワーク (GLOKEN) 共催：廿日市市、廿日市商工会議所、広島西部木材同業組合、 (一社) はつかいち観光協会 経緯：廿日市市より「地産地消」をテーマとした出店の依頼があった。
年・日時～年・日時	・焼き菓子作成 2018年7月19日 14時40分～18時00分 2018年7月20日 10時30分～18時00分 ・出店 2018年7月22日 10時00分～16時00分
活動拠点	・焼き菓子作成 山陽女子短期大学 ・当日出店 廿日市市スポーツセンターサンチェリー屋外広場 (広島県廿日市市串戸6丁目1番1号)
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	・教員 ★岡崎教授・石永教授・中尾准教授・松本助手 ・学生 焼き菓子作成 食物栄養学科2年3名、1年13名 当日出店 食物栄養学科2年7名、1年3名
活動内容	・焼き菓子作成 昨年度食品開発コース2年生より改良を加えられたレシピを用いて3種類のクッキー(「3色クッキー」)を作成し、レシピと共に包装した。 ・当日出店 けん玉ワールドカップ開催拠点であるサンチェリーでテント設営を行った後、試食・販売・展示を開始した。焼き菓子はテントでの販売および周辺を歩きながらの販売を行った。また、テント内ではその他に、前年度に開発を行い、現在販売中である「ルバーブソース」の試食や既に販売開始している「牡蠣美醬」の展示販売を行った。
反省・コメント	・今年度新規の依頼ではあったが、正式な依頼は大会開催の1ヶ月前であり、参加学生を集めることが困難であった。また、依頼趣旨より、学生による地産地消の要素を盛り込んだ商品の開発・販売が

	<p>理想であったが、今回のスケジュールでは困難と判断され、焼き菓子販売と前年度開発された地産地消商品の試食・展示に留まった。</p> <p>・実際に購入される方は多かった。今年度は想像で賄ったが、来年度依頼があった際は、商品開発・包装やポスター作成から対象者を意識して行っていきたい。また、当日出店に関わった学生にとっては、幅広い対象者との交流という貴重な経験となったのではないか。</p> <p>・当日は、異常高温にもかかわらず、広場で販売を進めた。気温が高くて販売数はそれほど増えなかったため、店頭販売に加えて午後から場外会場で売り歩きを行い、時間内に完売となった。</p>
添付書類	(有 無)

○添付レシピ (A6 サイズで印刷後、2つ折にしてクッキーと共に包装した)

### 3種のクッキー

**◇材料**

**A: プレーン (約40個)**

薄力粉	170 g
アーモンドパウダー	40 g
無塩バター	90 g
グラニュー糖	50 g



**B: くるみ&ココア (約44個)**

薄力粉	150 g
ココア	20 g
くるみ	70 g
無塩バター	90 g
粉砂糖	50 g



**C: 抹茶 (約40個)**

薄力粉	165 g
抹茶	5 g
アーモンドパウダー	40 g
無塩バター	90 g
グラニュー糖	50 g



※ 粉砂糖 (仕上げ用) 約40g ずつ

**◇下準備**

- ・材料は全て量っておく
- ・バター : 1cm角にカットし、冷やしておく
- ・くるみ : ビニール袋に入れ、めん棒で、粗く砕く

**◇作り方**

- ① フードプロセッサーに薄力粉 (・ココア・抹茶) ・アーモンドパウダー・粉砂糖 (グラニュー糖) を入れ混ぜる
- ② バターを加え、軽くまとまるまで混ぜる
- ※ Bの場合 : ③は少し粉気が残るまででボウルに入れ、くるみを加えて、まとまるまで手で混ぜる
- ③ 冷蔵庫で30分程度ねかせる
- ④ 8g ずつ丸め、オープンシートに間を空けて並べる
- ⑤ 170℃に予熱したオープン (下段) で14分焼く
- ⑥ ⑤を冷まし、粉砂糖をまぶす



○販売商品（レシピは包装タイに括り付けた）



○当日出店風景





地域貢献・地域連携活動報告

佐方1

活動名	「第15回れんげ祭り in 佐方」(2018年度)
目的または趣旨	佐方自治会行事へのボランティア活動として参加
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	主催：佐方アイラブ自治会 コミュニティ事業局 経緯：昨年度からの継続
年・日時～年・日時	2018年4月29日水曜日 8:30-15:30時
活動拠点	城内2丁目 JR線路沿い北側 空き地 (セブンイレブン前)
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	教員：★石永、 食物栄養：17名 臨床検査：26名 計43名 狭い場所だったので40名ほどに人数制限を行った
活動内容	
反省・コメント (学生の感想も含めて)	手持ちぶさたの学生が4-5名でた。積極的に他のブースに手伝いに行った。暑い日差しの中での交通整理を担当した学生から日よけを次回から用意した方が良いですよとアドバイスがあり、自治会の担当者に伝えた。
添付書類	(有) 無) 写真 感想文



## H30 年度れんげ祭りボランティア活動の感想

山陽女子短期大学

\*今回のボランティアでは、うどんの調理と販売を行いました。販売は最初テント内で行なっていましたが、途中からは歩き売りをしました。笑顔で接すると買ってくださる方がいて嬉しかったです。

\*ボランティアを通して学んだことは、何事も仲間と協力して行うということ学びました。自分一人では何も達成できません。仲間がいたからこそ完売することができました。次回のボランティアでも行かしたいと思います。

\*今回れんげ祭りのボランティアに参加して、地域の方々とたくさん交流することができたので、良かったです。みんなで協力してうどんを売り切ることができて、とても達成感を感じました。

\*今回のボランティアでは、うどんの販売を担当したのですが、暑い日だったこともあってか、売上があまり良くなく、歩き売りをしました。恥ずかしがって声をなかなか出せなくて、最初はうまくできなかったのですが、最後は販売でき、買ってくれた人に感謝でいっぱいでした。

\*今回はうどんの販売を手伝わせていただき、当日はとても天気良く、気温も高く、なかなか売れなくて困っていましたが、お持ち帰り用の売り子をしたら、地域の方々から笑顔が素敵だねなど、たくさん声をかけて頂き、去年のことも覚えてくださって嬉しかったです。

\*私はうどんを茹でるかかりをしました。うどんを茹でるのは初めてだったけどきちんと茹でることができましたし、良かったです。みんなで協力して活動することができ、良い経験になりました。今後もボランティアをしていきたいです。

\*地域の方々とたくさんお話をし、交流することができました。自分たちが作ったもので、お客様に喜んでいただくという一つの目標に向かって、みんなで協力して活動することができ、良い経験になりました。

\*今回は地域の方々と交流が多くあり、楽しみながらボランティアをすることができました。協力することで後片付けも素早く終わることができ、とても良かったと思います。次のボランティアも積極的に参加したいです。

\*初めてこういった地域の行事に参加しました。地域の皆さんは本当に優しくて元気で、とても元気をもらいました。地域の方と交流する機会はなかなかないので参加して良かったです。

\*日のボランティア活動は初めてやりましたが、楽しかったです。うどん作りで失敗したこともありましたが、皆で協力し合っただけで、改めて協力し合う大切さを学ぶことができました。

\*普段小さな子供たちと触れ合う機会がなく、始めはどう接すればいいか困惑してしまいましたが、一緒に遊んでいくうちにどうすれば小さな子供達に自分の言葉が伝わるかわかるようになりました。最後、地域の方に感謝され嬉しかったです。

\*今回は初めてのボランティアで不安なところもあったけど、地域の方々と交流することができ、自分もこの地域のひとりになれたんだと感ずることができた。大人の方から子供までたくさんの人と触れ合うことができ、人によつての接し方、話し方を学べたので、それを浮かして今後も頑張っていきたい。

\*地域の方や子供たちと多く関わるすることができました。子供たちと一緒に折り紙をしたり、けん玉や絵を書いたりしました。普段は長い時間子供たちと触れ合うことはできないので、次回も似たようなボランティアがあったら参加します。

\*今回、私が配属された場所は焼きそば店だった。一緒に作業をしたメンバーとのチームワークも良く、非常に効率よく作業することができ、「よく働いてくれて嬉しい」と言ってもらえて嬉しかった。

\*今までボランティアは何回もしてきたけれど、地域の方と一緒にということは今まで2回しかなく、もっと話したりしたいと思っていた時にれんげ祭りというものに出会い、そこで色々な人と話すことができたので、良かったです。また地域の方々が優しかったのでとても嬉しいと感じました。

\*大学に入ってから初めてのボランティア活動でしたが、臨床の人と一緒に焼きそばのお手伝いに入りました。たくさんの人に焼きそばを食べてもらえ、人との繋がりが増えたので良かったです。

\*祭りということもあり、たくさんの方々が参加していたため、様々な年齢層の方々とお話をしたりと、コミュニケーションをとることができた。また後片付けは、特に効率を良くするためにコミュニケーションを取り、率先して動かなければならないと感じた。

\*今回のボランティアで学んだことは、少しの茶道です。茶道のことは全く知りませんでしたが、作法などが少しわかるようになりました。また、来てくださった方がありがたいと言ってくくださったので嬉しかったです。

\*初めてお茶を立てるところを見た。知らないことばかりで、お茶の事や歴史などたくさん学ぶことができ、中学生ともたくさんお話をしたり交流ができた。普段、中学生と交流する

ことはなかなかないので、とても楽しく元気をもらいました。

\*学校内の人と話すだけでなく、地域の方々と話すことで、地域の活動などを知ることができる良い機会であった。自分から声をかける時、声のかけ方などで相手の気持ちも変わるので、気をつけることが必要だった。また参加したい。

\*初めて祭りの放送係を担当した。非常に緊張したがうまくやれたのではないと思う。また、地元の中学生達とも楽しく話すことができ、非常に有意義な時間を送ることができた。また参加したいと思っている。

\*いろんな人がいる中で、駐車しようとしている関係者以外の人に、駐車してはいけないことを伝える時少し言いにくかった。しかし、きちんと言わないと本当に駐車したい関係者の人が、困ってしまうので、とても大切な役割だと感じた。

\*地域の方々と協力して活動できた。また、こういう機会がないと地域の人と関わることはないと思うので、良い体験ができた。

\*働くことの大変さを知った。また、地域の人々と交流をして、様々な話をして、コミュニケーションの大切さと人の温かみがとてもよくわかった。これからもこのような活動をして、いろんなことを体験していきたい。

\*私は焼きそば担当だった。思っていたよりも休みが取れず、ほとんどバタバタしていたところだった。しかし、焼きそばの所の方々はとても優しくて楽しかった。思うように行動出来ない時があったので、次からはてきぱき動きたい。

\*私は焼きそば担当でした。焼きそばを盛り付ける作業をしました。そこで他学科の子たちとも活動することができたので、とても良かったです。来年も参加したいです。

\*今回は、焼きそばを作る係を担当しました。気をつけたところは、衛生面です。手を何回も洗うようにしました。また、地域の方々とコミュニケーションを大切にしました。次回は、もっと焼きそばを売れるようにしたいです。

\*子供達と遊ぶことを通じて、最近の子供たちの流行や、どんなことに興味・関心があるのかを知ることができた。また、自分が同じぐらいの年齢の時を思い出し、少し懐かしくなった

\*子供の世話や売り子をすることで、祭りを運営している人たちの細やかな心配りを直に感じることができた。相手への気遣いや奉仕の精神の素晴らしさが、よく分かった。是非これからの活動で身につけていきたいと思う。

\*最初は、来賓の方と話をして、社会のことや世渡りの仕方を学び、途中から子供と遊んだ

り、ゲームのお手伝いをすることで、人と接することの大切さや楽しさ、地域の方に貢献することで得た達成感などを学んだ。来年も参加したい。

\*地域の方たちや子供たちと触れ合えたことが良かった。普段だとなかなか祭りに行く機会もないので、このようなボランティアがあり、祭りの手伝いできたことが良かった。また参加したいと思った。

\*初めは、千本くじの担当で、子供に目線を合わせることに気をつけながら、接客しました。その後に巻き寿司の売り子の手伝いをしました。大きな声で呼びかけをしました。重いものを長い時間持てなかったので、筋肉をつけたいです。

\*地域の方々や子供たちと関わることができて、とても良い経験になった。綿菓子を作るとも、最初はうまくできななかったけど、徐々にコツをつかむことができたからよかった。

\*ボランティアを通して、地域の方々や中学生子供達と交流を深めることができました。自分の仕事だけでなく、周りをしっかり見て行動することが必要だと強く感じました。地域の方々や子供たちの笑顔を見ることができ良かったです。

\*私は、今回初めてボランティア活動をして、ボランティアは、地域の方々たちとの交流ができる場としてや、社会貢献することができるということを改めて知ることができました。

\*今回初めてボランティアに参加しました。地域の人たちと交流し、地域貢献することができるので、これから多くのボランティアに参加していきたいと思いました。

\*今回のボランティアで、たくさんの方と触れ合うことができた。特に小さな子供達との関わり方を学ぶことができた。他にも金銭を取り扱う場面もあったので、お金の受け渡し、販売個数の管理、お金の管理を責任をもって行うことができた。

\*私たちは当日の8時30分から最後まで活動したが、地域の方々は、前日から活動しトラックで最後まで運搬してくださっていて、ありがたいなと思った。来年も参加したいと思った。

\*地域の方々や中学生の子供達と協力して、ポン菓子を多く買ってもらえるためにはどうしたらよいか話し合いをしたり、大きな声を出して呼び込んだりするなど試行錯誤して食品を売って、売れたときの達成感が心地よかった。

\*今まで、あまり地域の方と触れ合うことのなかった私にとって、今回のボランティアは、大変良い経験になった。気さくに話しかけてくれる人も多く、楽しみながら活動することができたのが、今回何よりも良かったことだと思う

\*今回は、中学生の補助として参加した。参加人数が多くて仕事が少なかった。ステージの警備、見回り等の係を用意した方が、より良い係になると感じた。

地域貢献・地域連携活動報告

佐方 2

活動名	平成 30 年度「縁側サロンの会」の食事会 (佐方自治会行事への積極的参加)
目的または趣旨	廿日市市佐方地区在住の高齢者の方を大学に招待し、食事提供と食事指導を行っている。 目的は、高齢者の方々を大学に招き学生達と交流する事により、社会とのコミュニケーションを図ること、また食事の提供による食育を行う事で、健康な食生活を送ってもらうことである。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	廿日市市教育委員会 廿日市市福祉協議会 アイラブ自治会 連絡責任者 福祉事業局長 生川 佳代子様 (080-1647-6551)
年・日時~年・日時	2018 年 7 月 13 日 (金) 12~13 時
活動拠点	本学 栄養指導演習室・総合調理実習室
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	縁側サロンの会 25 名 アイラブ自治会 1 名 佐方市民センター 1 名 廿日市市教育委員会 2 名 廿日市市社会福祉協議会 3 名 計 32 名 担当教員 ★平林 眞弓・濱本 沙織 参加教員 学長・事務長・他食物栄養学科教員 5 名 学生 食物栄養学科栄養管理コース 2 年生 43 名 計 52 名 合計 84 名
活動内容	7 月 13 日(金) 11:45 大学の送迎バスで縁側サロンの会の皆様が到着 12:00 学生・教員と一緒に歓談しながらの食事会 13:00 大学の送迎バスで帰途に着く  食事の献立 ・安芸のびっくり井 ・天ぷら

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶碗蒸し</li> <li>・かぼちやの煮物</li> <li>・あんみつ</li> </ul>
反省・コメント	<p>地域の話や学校の話、近況報告や提供した食事の話など、年の離れた方達との交流ができていた。</p> <p>「おいしい」や「普段の食事の味つけが濃すぎることを実感した」「多くの工夫をされたご馳走が食べられてよかった」など、食事についてもとても満足されていた。</p>
添付書類	有





地域貢献・地域連携活動報告

佐方 4

活動名	地域連携事業：佐方地区敬老会
目的または趣旨	佐方地区にて開催される敬老会に人手がいるため、また地域の方との交流を図るために参加
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：佐方自治会 経緯：地域連携活動として、佐方自治会と協議し昨年と同様に、敬老会の催しにボランティアとして協力することになった。 スタッフとして、食物栄養学科の学生が担当する。
年・日時	平成 30 年 9 月 17 日(9 月 16 日前日準備有り)
活動拠点	佐方市民センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：★石永正隆 16 日 食物栄養学科 2 名 17 日 食物栄養学科 2 名
活動内容	参加される老人の人数は 150 名程度であった。小学生や自治会の方々と一緒に準備を行った 16 日：主として案内のチラシを折りたたむ作業をした 17 日：受付と誘導などを行った。 小中学生が敬老会に出席されるご老人を入り口までの案内、それを受けて会場の席まで、できるだけつめて案内する。
反省・コメント	今年は例年になく少なかった。出席者が多いので、10 名ほどと要望されていたが書く 2 名であった。 ただ、参加した学生は、みんな元気にやってくれていた。
添付書類	有 無)

## 2018年敬老会ボランティア 一言感想

・佐方地区の敬老会に参加させていただき、保育所や小学校、中学校の子どもたちやおじいさんおばあさんたちと幅広い世代の人たちと触れ合うことができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。このような行事の企画や運営をしておられる方も見れ、裏方の大変さやすごさを知りとてもためになりました。2年連続で佐方地区の敬老会に参加できてよかったです良い形ばかりでした

・2回目の参加でした。去年に比べお年寄りや地域の子どもたちとたくさん交流することができました。佐方の皆さんはとても優しく接していただき良い経験になりました。

・地域の人と協力して行うことができた。次回は今回よりも長い時間の中で、たくさんのボランティア活動に積極的に取り組むと思う。

・地域の様々な人と関わることができ、この地域の雰囲気が知れるとても良い機会だと思いました。このような地域のボランティアに参加していけたらいいと思いました。

地域貢献・地域連携活動報告

佐方 7

活動名	さがたっこひろば（小学生対象の料理教室）
目的または趣旨	佐方自治会行事への参加の一つとしてさがたっこひろばにスタッフとして参加。
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	主催：佐方市民センター
年・日時～年・日時	2018年11月17日（土）8時20分～13時 佐方市民センターにて下準備、実習、片づけ
活動拠点	佐方市民センター
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	★下地准教授、西庄 栄養調理コース2年生8名
活動内容	市民センターにて材料の計量、下準備を行ない、事前に制作したパワーポイントを使用して当日使用する食材の簡単なクイズ等を行なった。下地准教授が簡単に調理の説明をした後、各グループに分かれて実習（総数20名）。1グループに学生が2名ずつついた。学生はそれぞれに声かけをしながら小学生に指示を出していた。皆で試食後片づけを行ない、解散とした。
反省・コメント	今年の参加者は低学年が多かったが、毎回参加している子たちばかりだったようで協力しながら積極的に参加してくれた。学生たちと話ながら楽しく実習もでき、けがなく終了した。料理は、家にある調味料を使って作ることができるものばかりなので家でも作ると言ってくれる小学生が多かった。学生たちは小学生のレベルに合わせた献立を作成することの大切さや、教えることの難しさを学んだと思う。
添付書類	(有) 無)



地域貢献・地域連携活動報告

佐方 8

活動名	佐方子ども餅つき大会
目的または趣旨	佐方自治会行事への参加
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	主催：佐方自治会 昨年に引き続き本行事に参加
年・日時～年・日時	2018年11月23日 8:30-13:30
活動拠点	佐方八幡神社境内
参加者 教員（責任者には ★） 学生（所属・学年・ 人数）	責任者：★石永正隆 食物栄養学科 2名
活動内容	11月23日に佐方自治会主催の佐方子供餅つき大会に参加しました。晴天に恵まれ、境内は美しい紅葉で彩られていた。仕事内容は大量の焼き芋用のさつまいもの水洗をして、泥を落とし、適当な大きさに切った芋をアルミホイルで包んだり、また芋の包み方を子ども達に教えることや、豚汁に参加した子ども達に手際よく注ぐことであった。100名位の子供達に参加し、豚汁、焼き芋、紅白のお餅が子ども達に振る舞われた。自治会の方々に指示を受けながら、テキパキと与えられた仕事をこなしていた。後日自治会の担当者が良く頑張ってくれましたとお礼を言いに来られた。
反省・コメント (学生の感想も含めて)	3連休となり、学生の参加は少なかった。 エプロン、手袋、マスク、ネット（帽子）を着用するよう前もって指導しておくべきだった。
添付書類	(有 無)



地域貢献・地域連携活動報告

佐方 9

活動名	佐方とんど祭
目的または趣旨	地域連携：佐方自治会行事への参加の一つとして とんど祭りへボランティアとして参加
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	主催：佐方自治会 経緯：継続
年・日時～年・日時	2019年1月12日 10時00分から
活動拠点	佐方小学校 校庭
参加者 教員（責任者には ★） 学生（所属・学年・ 人数）	教員★石永 学生：、食物栄養学科2年3名 臨床検査学科1年2名
活動内容	午前：しめ縄やはま矢などの金具外し 3名 午後：受付 2名
反省・コメント等	今年は豚汁作りは無く、午前10時からとんどで燃やす、正月の飾り やはま矢などの金具を取り外す作業を行い、午後から受付を担当しま した。地域の方々との交流を深めたようでした。敬老会にも参加した 学生を子ども達が覚えてくれていたようで、とっても嬉しく思いまし た。自治会の方々から感謝の言葉をいただきました。
添付書類	有





## 地域貢献・地域連携活動報告

4 - 1

活動名	インターンシップ
目的または趣旨	社会人としてのマナーを身につけるとともに、職業観や職業意識を高め、キャリアアップの醸成をはかる。
活動拠点	①FMはつかいち ②株式会社ナルミヤ・インターナショナル ③放課後ディサービス「ウィルサポ」 ④グランラセーレ三次（婚礼業務）
期日（期間）	①8月20日～8月24日 ②2名の学生がそれぞれ以下の期日に分かれて活動 ・8月28日～9月2日 ・9月4日～9月9日 ③9月10日～9月14日 ④9月13日～9月16日
参加者	人間生活学科人間心理コース学生 5名
活動内容	①放送業務補助 ②店舗管理及び販売の補助 ③児童指導員補助 ④婚礼業務全般補助
反省・コメント等	<p>学生たちはそれぞれの自己目標をもってインターンシップに臨み、終了後の報告書及び報告会での発表では、自己目標をある程度達成できたという自己評価であった。今回の実習先は放送関係、販売、障がいをもった子どもたちのディサービス、結婚式場であったが、実習生全員が自己目標として挙げていたのは、実習先の仕事内容について知るという業界研究とコミュニケーションを上手にとることであった。また、実習で学んだこととして、仕事とは与えられた業務をこなすだけでなく、どのようにすれば効率的に仕事ができるかなどを考えながら仕事をすることや、臨機応変な対応、「報告・連絡・相談」の大切さを学んだということで、有意義な実習体験であったと思う。</p> <p>実習先からの様々な項目について3段階評価してもらい、すべての項目で高い評価を受けたが、マナーについての評価がやや低かったことが反省点で、来年度は、マナーについてももう少し力を入れて指導したい。</p>
添付書類	無

## 地域貢献・地域連携活動報告

4-1

活動名	インターンシップ
目的または趣旨	社会人としてのマナーを身につけるとともに、職業観や職業意識を高め、キャリアアップの醸成をはかる。
活動拠点	①株式会社藤井屋 広島市佐伯区五日市港 2-1-1 藤井屋五日市みなと工場 ②株式会社サンヨーフーズ 廿日市市友田字橋桁 10096-2 広島工場
期日（期間）	①3月16日～3月19日 ②3月12～13、19～20日
参加者	①食物栄養学科食品開発コース1年次生3名 ②食物栄養学科食品開発コース1年次生3名
活動内容	食品製造、販売、接客業務およびその補助
反省・コメント等	<p>食物栄養学科食品開発コースに在学する6名の学生は3名ずつ2手にわかれ、上記①および②の施設へ出向き、将来のキャリアに関連した就業体験を行った。本プログラムは、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職業観や職業意識の醸成</li> <li>2. 自らの適性に対する見極め</li> <li>3. 実社会に触れることによる学習意欲の向上</li> <li>4. 職業人・社会人としてのマナーや態度の向上</li> </ol> <p>を目的に実施されているが、事前事後の学内研修および報告と合わせ、参加した学生らは当初の目的を達成したようである。</p> <p>今後、同コース生は「インターンシップⅡ」として2年次に再度実施予定であるが、この度の経験をふまえさらなる学習成果を得るべく、目的意識を高く持ち日々の専門科目に積極的に臨んでほしいところである。</p>
添付書類	無

地域貢献・地域連携活動報告

4-2

活動名	医療事務職員のスキルアップ勉強会
目的または趣旨	廿日市地域の医療機関の事務職員（医事課員、診療情報管理士等）のスキルアップのための勉強会を、2ヶ月毎に行う。本学教員が会長・事務局を務める「広島診療情報勉強会」と連携して行う
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	共催団体名：広島診療情報勉強会 広島診療情報勉強会は、平成9年1月に発足し、地域医療機関の医事課員、診療情報管理士並びに診療情報管理に携わる者、関係機関等が共に連携し、診療情報提供の環境作り及び会員の学術・実務的な向上を図り、医療・保健・福祉分野において貢献できる人材になれるよう研鑽することを目的としている。本学教員が会長・事務局を務めている。
年・日時～年・日時	平成30年4月・6月・8月・10月・12月・平成31年2月
活動拠点	山陽女子短期大学
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数） *学生：講演会に参加	教員：★有吉 澄江 学生：専攻科 診療情報管理専攻 学生 人間生活学科医療事務情報コース 学生
活動内容	事例発表、意見交換など、廿日市市内の医療機関事務職員のスキルアップのための勉強会を開催している。
反省・コメント	本勉強会は、23年目を迎えている。毎回、多数の参加者があり、活発な活動を継続している。
添付書類	無

地域貢献・地域連携活動報告

5 - 1

活動名	はつかいち環境フェスタ
目的または趣旨	地産地消をすすめるため廿日市市産の食材を使用するなど、環境にやさしい取組みを紹介する企業・団体出展ブースに出店
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	廿日市市環境政策課内はつかいち環境フェスタ実行委員会 今年度、吉和地域で商品化された、ルバーブソースの試食によって品質価格などの評価を行った。
年・日時~年・日時	平成30年10月14日(日) 10:00~15:00
活動拠点	ゆめ桜公園(ゆめタウン廿日市 横)
参加者 教員(責任者には★)	教員:石永 正隆 ★岡崎 尚 学生:食品開発コース1年 2名 栄養管理コース2年 2名
活動内容	吉和で製品化されたルバーブソースの試食と評価アンケートを行った。 パネルでルバーブとブルーベリージャムの特徴を紹介した。 また、企業で商品化されたカキ魚醤の販売を行った。
反省・コメント等	学生が主体的になるような参加となるようにすることが必要であった。
添付書類	有



エコフェスタ会場での実施状況

地域貢献・地域連携活動報告

5 - 4

活動名	スギ花粉の飛散状況調査
目的または趣旨	春には毎年スギ花粉が飛散し、アレルギーで悩まれている。廿日市佐方（本学）地区での飛散状況を調査する。
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	本学臨床棟屋上に花粉採取器を設置し、2月3日から開始した。
年・日時～年・日時	平成30年2月12日（月）～3月30日（金）
活動拠点	山陽女子短期大学 臨床検査学科
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	岡村美和 学生 臨床検査学科2年 2名（三宅、野間）
活動内容	<p>臨床検査学科棟屋上に設置されたダーラム型花粉捕集器に設置した捕集器にワセリンを塗布した採取用スライドを1日1回取り替えて、カルベラ液で染色し1cm<sup>2</sup>中のスギ花粉数を顕微鏡にて計測する。</p> <p>環境省の調査によると、今シーズンの飛散開始日は広島県が2月23日、ピークが3月6日、総数は856個/cm<sup>3</sup>であった。山口県については環境省での測定がされていなかったが、山口県医師会が実施した実測日は2月14日、ピークが3月6日、シーズン総数は2760個/cm<sup>3</sup>で、広島県よりの岩国だけでみると、総数は約1,000個/cm<sup>3</sup>であった本学では2月14日に1個検出されたが、その後検出されない日が続き、2月23日頃から継続して検出され始めた。ピークは3月5,6,7日、シーズン総数は、667個/cm<sup>3</sup>であるが今回3月末までしかデータを取ることが出来なかったこと考慮すると広島県の総数に近い値となることが推測できる。昨年度同様、広島県の飛散状況に近い傾向にあった。</p>
反省・コメント	3月に入るとヒノキのとスギの区別が難しく、パピラが見えるものは容易だが、パピラが観察されない花粉がヒノキなのか、向きによってパピラが見えていないスギなのかの判断に困ることがあった。
添付書類	無

地域貢献・地域連携活動報告

6-1~6-4

活動名	地場産業との連携による商品開発
目的または趣旨	<p>廿日市市や県内の事業者と連携して新商品を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮島 SA 下り（㈱広電宮島ガーデン）とのレストランメニュー開発</li> <li>・濱本水産㈱との共同研究</li> <li>・「ちいさなおはぎ屋」とのコラボ商品開発</li> </ul>
共催団体名および共催の経緯（依頼理由）	<p>共催：吉和ルバーブ研究会、㈱広電宮島ガーデン、濱本水産㈱、ちいさなおはぎ屋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吉和ルバーブ研究会でルバーブ加工品の商品化及び販売について、技術的な助言を行った。（H29年4月～継続）</li> <li>・宮島 SA（下り）からメニュー開発の依頼（H29年2月）があり、H30年度の販売に対して技術的な相談などに応じた。</li> <li>・濱本水産㈱からナマコ及びムール貝の加工依頼（H28年4月）があり、技術的な支援によって HACCP の認証を得ることが来た。</li> <li>・「ちいさなおはぎ屋」から商品開発の依頼があり（H30年4月）、学生とともに商品化に関わった。</li> </ul>
年・日時	平成 30 年度
活動拠点	山陽女子短期大学 岡崎研究室
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	<p>全体の責任者：岡崎教授</p> <p>食物栄養学科 食品開発コース及び栄養管理コースの学生</p>
活動内容	添付書類参照
反省・コメント	添付書類参照
添付書類	(有) 無)

～新しいおはぎの開発～

五日市の「ちいさなおはぎ屋」（中村社長）とのコラボ  
商品開発クラブ

5月初めに五日市のお店に伺いおはぎの試食会（写真）をスタートにしました。おはぎに色んな素材を入れて試食を繰り返しました。最終的に練ごま、ホイップクリーム、リンゴ、チーズなどを入れることにしました。そして、11月16日（金）に中村社長と奥さんを交えて、試食会を三女短大で開催しました（写真下）。みんなで考えた



ものの中からおもしろいものを選び商品化が可能かどうか検討してもらうことになりました。実際に商品化されて「山女おはぎ」が出来上がってほしいと願っています。



試食会（2年生・1年生）



中村社長の味見



## 「水産原料を活用した加工食品の開発に関する共同研究」に係る報告書

山陽女子短期大学食物栄養学科 岡崎尚

### 1 共同研究契約の内容

課題名：「水産原料を活用した加工食品の開発に関する共同研究」

#### (1) 目的および内容：

水産原料の漁獲は季節性と豊漁・不良の様々な要因によって、原料確保が不安定である。濱本水産株式会社では水産加工品を安定して生産するため、その加工技術や冷凍技術について共同で検討するとともに、加工品の開発に結び付ける。

具体的実施内容：

第2条 ナマコ加工およびムール貝加工に関する HACCP プランの構築に向けた製造工程内の衛生管理などの課題について検討する。

#### (2) 担当者

学校法人山陽女学園山陽女子短期大学 食物栄養学科 教授・岡崎尚  
濱本水産株式会社 取締役（営業部長） 中 省三  
（代表取締役社長 濱本 恵津生）

#### (3) 共同研究等を行う期間

契約日から平成 31 年 3 月 31 日

#### (4) 共同研究実施による成果

ムール貝加工に関する HACCP プランを構築し、(社)大日本水産会から HACCP 認定を受けることができた。また、ナマコ加工品の品質を改善した。



包装後加熱処理冷凍品



調理例



地域貢献・地域連携活動報告

6-2

活動名	吉和ルバーブ加工食品の開発
目的または趣旨	廿日市市吉和で長年栽培されている野菜「ルバーブ」を使った商品開発の支援
共催団体名および共催の経緯 (依頼理由)	主催：吉和ルバーブ研究会 共催：廿日市市、佐伯商工会 経緯：ルバーブソースの開発を通して、商品化を目指すようになった。
年・日時～年・日時	吉和ルバーブ研究会への出席 2018年7月から毎月開催される研究会への出席（3回）
活動拠点	・開催場所 廿日市市吉和支所 2階 大会議室
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	・教員 岡崎教授
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議において技術的なアドバイス 賞味期限、品質維持、糖度など技術的な問題に対して改善案などを行い、商品化へのサポートを行った。</li> <li>・もみじ饅頭の餡としての活用 もみじ饅頭に加えた場合の保存性やカステラ生地へのジャムの水分移行など技術的なアドバイスを(株)高津堂の技術者に行った。</li> </ul>
反省・コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学と現地の距離があるため、電話での対応で済ませざるを得ない。</li> <li>・すでに製品化に至っているため、技術的な面よりどのように食するか、ソフト面での課題に移っている。販売戦略についての新しい展開が必要だろう。</li> <li>・大学としての取組が地域の産業につながることは良いことだが、教員の独自対応となると手弁当になるので廿日市市の支援制度があれば助かる。</li> </ul>
添付書類	無

地域貢献・地域連携活動報告

7-2

活動名	乳がん健診啓発運動：ブレストケア・ピンクリボンキャンペーン
目的または趣旨	広島県は乳がん患者数が全国でワースト4位なので、早期発見早期治療を目指すため、健診の啓蒙活動を行っている。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：NPO 法人未来 経緯：NPO 法人未来の主宰者が廿日市市出身という事とその主宰者と知り合いだったので、協力を依頼された。
年・日時	平成30年5月13日
活動拠点	Mazda Zoom-Zoom スタジアム広島
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：★中東教江 食物栄養学科 栄養管理2年5名
活動内容	乳がんに関する展示物やマンモグラフィ、グッズ販売などのコーナーに、カープの試合を見に来た観客を呼び込むために、本学で作ったアレルギー対応のお菓子を配り、勧誘をする。乳がんの健診の受診率が上がるよう、若い人や中年の女性たちに多く声を掛けた。
反省・コメント	今回は雨が降って試合は中止となったが、11時に開場されたので、多くの来場者があった。試合中止の発表があるまでに、多くの人に乳がんのモデル型の触診コーナーで体験をしていた。短い時間ではあったが、自己検診の啓発の効果はあったと思う。
添付書類	(有 <input checked="" type="radio"/> 無)

地域貢献・地域連携活動報告

7-3

活動名	世界エイズデー「レッドリボンキャンペーン in 広島」
目的または趣旨	エイズ予防啓発事業
共催団体名および 共催の経緯 (依頼理由)	広島県臨床検査技師会
年・日時~年・日時	2018年12月8日(土)
活動拠点	広島市西新天地公共広場
参加者 教員(責任者には★) 学生(所属・学年・人数)	1年生5名、2年生3名
活動内容	街頭でのパンフレット配布、検査の呼び込み
反省・コメント	事前学習もあり、AIDSのことも知れたので良い経験となりました。今回のボランティアを通して、AIDSという病気への意識と理解が大切だと思いました。AIDSの正しい情報を一人でも多くの人に知ってもらうために呼びかけなど工夫して活動できました。AIDSについて誤解している人に理解してもらえるようにするために、もっと自分達が勉強するべきだと思いました。
添付書類	(有 <input checked="" type="radio"/> 無)

地域貢献・地域連携活動報告

7-4

活動名	フードフェスティバルにて焼き菓子の販売
目的または趣旨	広島市中央公園で開催される「ひろしまフードフェスティバル」に、地元の食材を使用した商品を出品し、販売スタッフとして参加。
共催団体名および共催の経緯(依頼理由)	主催：J Aグループ広島 経緯：8月に主催者側から依頼があった。8月30日に説明会に参加し、焼き菓子の販売を依頼されたのでスイーツハウスを主体にボランティアを募集した。
年・日時～年・日時	10月25日 9時～17時 制作 10月26日 10時～21時 制作、包装 10月27日 9時～17時 焼き菓子の販売、ドーナツの実演販売 10月28日 9時～17時 焼き菓子の販売、ドーナツの実演販売
活動拠点	広島市中央公園
参加者 教員（責任者には★） 学生（所属・学年・人数）	全体の責任者：★西庄 25日：中尾准教授、津村講師、★西庄 食物栄養学科 1年 31名 26日：★中尾准教授、松本助手 食物栄養学科 2年生 1年生 27日：★西庄 臨床検査学科 8名、食物栄養学科 3名 29日：★西庄 臨床検査学科 2名、食物栄養学科 3名
活動内容	25日：さつま芋パウンドケーキ、米粉ガトーショコラ、スノーボールを作成。 26日：スノーボールを制作。ポスターの制作、包装。 27日：焼き菓子の販売を行なった。焼き菓子は14時頃に完売した。 28日：前日と同じ内容で販売。焼き菓子は昼過ぎぐらいに完売した。
反省・コメント	天候が両日とも天候に恵まれ、早い段階で売り切れた。今年度は豪雨災害の影響もあり、主催者側が復興支援に力を入れており、本学のブースが縮小されたので例年行っているドーナツの実演販売は見送った。今年度も参加学生をボランティアで募集したが、伝達がうまくいっておらず、参加人数がとても少なかった。 実演販売しない場合は焼き菓子をより多く作っておかないといけないため、制作の方のボランティアも今まで以上に募集しないと感じた。
添付書類	(有) <input checked="" type="radio"/> (無)

地域貢献・地域連携活動報告

7 - 5

活動名	廿日市市消防団「機能別団員」
目的または趣旨	地震や豪雨などによる災害時に避難所の運営や救護活動などを担う(機能別団員で任務が後方支援などに限定される)
主催団体名	廿日市市消防署
期日(期間)	平成29年4月1日～平成30年4月30日
活動拠点	廿日市市
参加者	廿日市市学生消防団員認証状授与式：5月18日(金) 学長、学生部長 消防団員：臨床検査学科14名、食物栄養学科3名
活動内容	団員数が多いため本学会議室で、学生消防団員の認証状授与式があり、本学の学生17名(臨床検査学科14名食物栄養学科3名)が、伊藤博消防団長より認証状を受け取りました。この1年間各地区の防災イベント等に参加するなど活動して来ました。
反省・コメント等	消防署員の方からイベント等に良く参加してくれ、市民の方々への指導も良く、交流も上手いき、ととても有り難かったと感謝の言葉を頂きました。
添付書類	有



中国新聞 2018年5月19日朝刊

## 学生消防団員を初認証



伊藤消防団長（右端）から  
認証状を受け取る学生

廿日市市消防本部は 18日、山陽女子短大（同市）の学生消防団員17人に認証状を初めて交付した。若い人材確保を目指し昨年始めた制度。就職活動の自己アピールなどに生かせる

廿日市市消防本部は 18日、山陽女子短大（同市）の学生消防団員17人に認証状を初めて交付した。若い人材確保を目指し昨年始めた制度。就職活動の自己アピールなどに生かせる

廿日市市消防本部は 18日、山陽女子短大（同市）の学生消防団員17人に認証状を初めて交付した。若い人材確保を目指し昨年始めた制度。就職活動の自己アピールなどに生かせる

廿日市市消防本部は 18日、山陽女子短大（同市）の学生消防団員17人に認証状を初めて交付した。若い人材確保を目指し昨年始めた制度。就職活動の自己アピールなどに生かせる

大学園祭で勧誘活動をしたりしてきた。同大での交付式に13人が出席。伊藤博消防団長（69）から認証状を受け取った。3年花田三穂さん（20）は「災害時の逃げ方などを学び、地域の人たちとも触れ合えた。後輩にも入団を呼び掛けたい」と話した。

1日時点の市内の消防団員は定員732人に対して648人で、うち35人が学生。伊藤団長は「就職後も培った知識をそれぞれの地域で生かしてほしい。若者の団員増にもつながれば」と話す。日本赤十字広島看護大の学生2人にも近く認証状を贈る。（森戸新士）